

営農情報

2019
8月号 No.82



J Aレーク伊吹 経済部 営農企画課
TEL 0749-63-2101 FAX 0749-64-2085

長浜北・長浜東支店北部担当 野邊 裕之
携帯 080-4768-6531

今月の話題

- ◆ 猛暑に備える品質向上対策
- ◆ 米袋の表示について
- ◆ 田華の豊稲による土づくり
- ◆ 農政ダイジェスト

農家所得増大
"コシヒカリプレミアム88"
チャレンジ!



要件

- みずかがみ（全農基準）・コシヒカリ・特別栽培米コシヒカリで個袋及びフレコンにて出荷した検査等級が1等の米
- J A 自主分析で、整粒80%以上・食味値80点以上の米

メモ

- ✓ 廃棄農薬回収(2年に1回のためこの機会にどうぞ)
開催日：10月26日(土)
時間：AM9:00~AM11:00
場所：伊吹資材センター、米原資材センター
経済センター
- ✓ 土づくり資材 "田華の豊稲"
注文書8月中旬に配布予定



病害虫防除所発表
斑点米カメムシ類
発生量 やや多い



8月上旬に斑点米カメムシ類発生調査を行いました。ヒエが多い圃場や、山間部近くの圃場でカメムシが発生しておりました。病害虫について圃場を今一度ご確認ください。

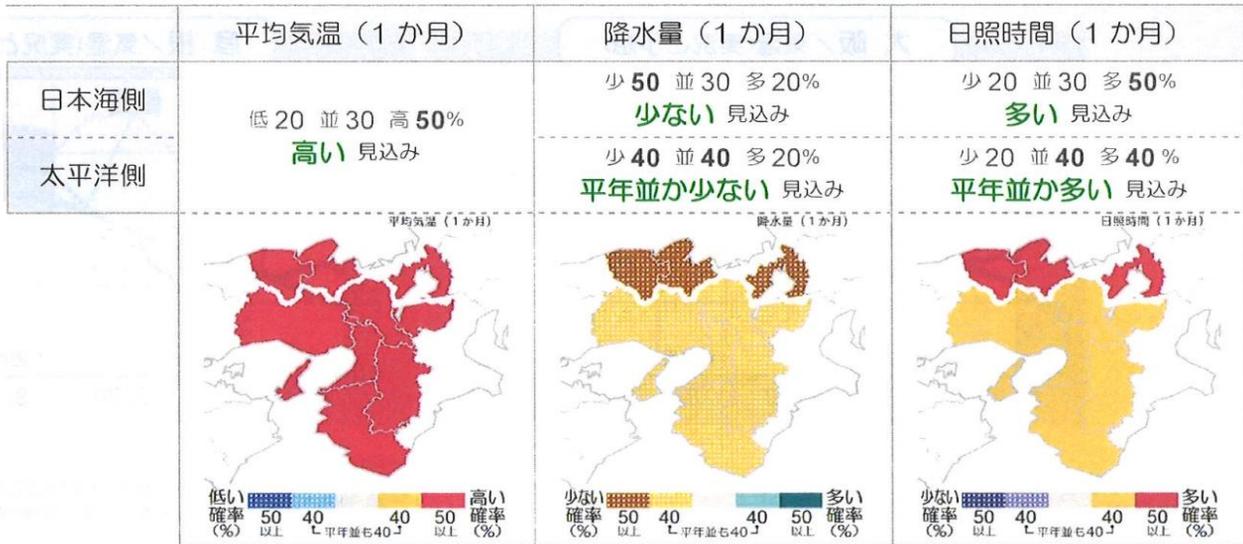
猛暑に備える品質向上対策



7月下旬の梅雨明けから高温が連日続いています。気象庁の8月上旬までの予報が大きく変わりました。8月に入ってから高温傾向の予報が出ていますので、高温対策が必要となります。

8月の気象予報

大阪管区气象台 (7/25発表)



向こう1か月の予報のポイント

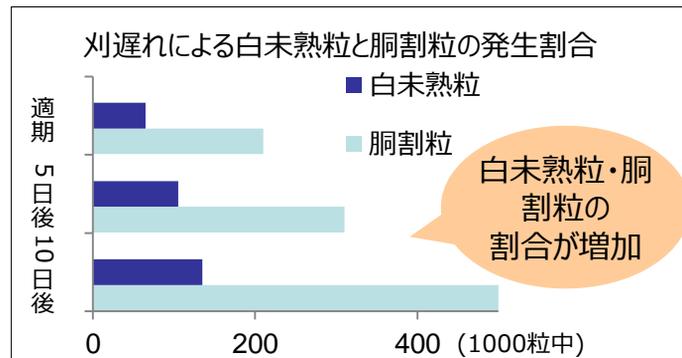
- ✓ 太平洋高気圧に覆われやすく、平均気温は高い見込み
- ✓ 日照時間は、多い見込み
- ✓ 降水量は、少ない見込み

8月上旬までは高温傾向のため、心白・腹白粒、胴割粒発生が心配されます！！

適期収穫作業による乳白粒と胴割粒低減対策

ポイント

- ✓ 収穫予測を行い、スムーズに収穫作業を行えるよう事前準備を行う
- ✓ コンバイン収穫は低スピードで行う
- ✓ 収穫後の急激あるいは過度の乾燥を行わない



● 出穂期から見る収穫予測 (5月上旬植えコスヒカリの場合)



【登熟日数の考え方】 コシヒカリの場合、登熟日数は積算温度を900℃~950℃で計算します

$$\text{登熟日数} = \frac{\text{積算温度}}{\text{平均気温}}$$

近年、温暖化等の影響もあり出穂以降の気温が高く登熟日数が短くなる傾向があるため今後の気温に注意いただく必要があります。

登熟日数の比較 (滋賀県農業技術センターデータより)

| 年次 \ 品種 | コシヒカリ | 日本晴 | 秋の詩 |
|-------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 昭和62年～平成19年 | 36日 (32～40日) | 41日 (34～49日) | — |
| 平成20年～29年 | 34日 (30～37日) | 36日 (32～40日) | 39日 (34～42日) |

※()内は各期間の最小～最大日数。「日本晴」は平成18～22年の5年間。

● 籾黄化率からの収穫予測

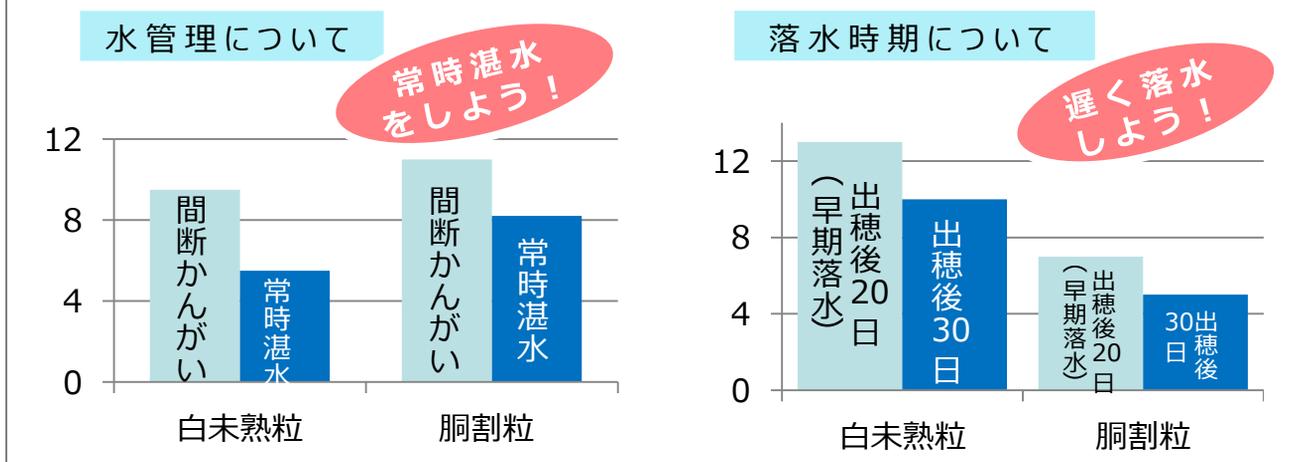


水管理による乳白粒と胴割粒低減対策

ポイント

- ✓ 出穂以降の常時湛水管理
- ✓ 高温による地温上昇を防ぐために出穂以降のこまめな入水
- ✓ 収穫作業に支障が出ない程度にできるだけ早期落水を行わない

水管理における白未熟粒と胴割粒の発生割合 (%)



● 出穂期後3週間は常時湛水管理を継続しましょう



米袋の表示について

新元号に伴う令和1年産用の検査証明書欄の対応について

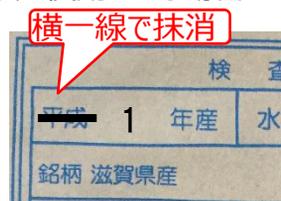
出荷用米袋には元号が記入されておりません。元号は省略できます。

【記入例】

1年産及び元年産、令和1年産、令和元年



※平成の元号が入っている袋を使用される場合



田華の豊稲による土づくり～来年度に向けて～

J Aレーク伊吹の土づくり資材は、各種成分がバランスよく含まれることで、カドミウム吸収抑制の対策に加え、水稻を健全に育て、収量や品質の向上につながります。安全で高品質生産のために、継続的な土づくり資材の施用が必要です。

アルカリ補給効果

稲わら分解促進
PHの上昇・適正維持
カドミウムの吸収抑制効果

リン酸補給効果

根の生育促進
草型改善・根量確保
秋落ち軽減

ケイ酸補給効果

倒伏軽減
品質向上
病害虫抑制

予約申込締切日
10月15日

ひと月の動き

農政ダイジェスト

農業・地域の雑誌「地上」より抜粋

～定価(税込)606円 購読申込受付中～

棚田地域振興法が成立

棚田地域振興法が参議院本会議にて前回一致で可決、成立した。棚田の荒廃を防ぐことで、農産物の供給や伝統文化の継承といった棚田地域の多面的機能が生み出す恩恵を保全することが目的。国が主体となって棚田地域を振興する枠組みを作り、農業生産に限らない多様な活動を省庁が支援できるようにする。

若者の食へ意識低さ目立つ

政府は2018年度版の食育白書を閣議決定した。20代～30代の若年層で、朝食について「ほとんど食べない」と答えた人は17.9%、週に2、3回しか食べないとした人は9.0%おり、約3割の若者が朝食を抜きがちとなっていた。前年度に比べ、割合は増加している。

輸出拡大のための新組織の設置を決定

政府は農林水産物・食品の輸出拡大のために、関係省庁の総合調整を行う新組織の設置を決めた。新組織は各国の輸入規制に対する交渉や、国内での手続きをまとめて管理する司令塔の役割を果たす。手続きの時間を短縮することで、輸出を拡大させることが狙い。

レーク伊吹の動き

湛水管理調査実施

J Aレーク伊吹では、7月17日から26日にかけて、湖北農業農村振興事務所、米原市、天の川・入り江の土地改良区とともに湛水管理調査を実施しました。調査の結果、湛水管理の実施不十分なほ場が見られましたので、今後も収穫間際までの常時湛水管理を啓発し、玄米中のカドミウムの抑制に繋がります。

お知らせ
9月訪問
について

9月は神照カントリーに勤務しております。
定期訪問にお伺いできませんので、予めご了承ください。



080-4768-6531

お問い合わせ等ございましたら、お気軽にケータイにご連絡下さい。

